



社会福祉法人福岡市社会福祉協議会  
 南区社協事務所 (南区社会福祉協議会)  
 福岡市南区塩原3-25-1 南区役所別館1階  
 TEL:092-554-1039 FAX:092-557-4068  
 Eメール: minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp

福岡市社会福祉協議会  
 マスコットキャラクター  
 こことと

10/26  
 (土)

## ランとも RUN伴2024開催しました!

### ～福岡市南区エリア 報告～

「RUN伴(ランとも)」とは認知症の当事者や家族、支援者、一般の方が少しずつ、リレーしながらタスキをつないでいく全国的な認知症の啓発活動です。

今年度、福岡市では各区同時開催でイベントを実施しました。

福岡市南区エリアでは、地域貢献を目的とする医療福祉介護関係者の事業所ネットワークの皆さまが中心となり、3つのルートでタスキをつなぎ、大橋駅西口広場でゴールイベントを実施しました。

各ルートでは、当事者の方もランナーとして参加し、ルート途中の拠点で保育園児と高齢者の交流、認知症講座、演奏会、福祉用具の体験会などさまざまな取組みが行なわれました。

また、寄せ書きを書くための布の縫い合わせを認知症当事者の方に作業していただいたほか、スタートや中継の拠点として公民館や地域のスーパーにご協力いただくなど、多くの方の参加・協力がありました。

ゴールでは、プロレスイベントや認知症の話、福祉事業所による販売ブースなどで賑わい、子どもから大人まで楽しめるイベントとなりました。

実行委員長の星直樹さんは「今後も『認知症であってもなくても安心して暮らせるまちづくりを応援します』を合言葉に活動を続けていきたい」と、抱負を話されました。



RUN伴を通して、認知症を考える機会となり「安心して暮らせるまちづくり」のため個人それぞれがアクションを起こせるきっかけになるよう、今後も取り組んでいきます。

## 介護の現場で働く外国人と地域との交流

令和6年10月27日に、柏原小学校で開催された「柏祭(かっさい)」で、介護事業所で働く外国人と地域住民との交流が行なわれました。この取組みは福岡市が実施する「草の根交流プログラム」の一環で、外国人をまち全体で受け入れる環境を醸成し、外国人介護職員の福岡市での定着を目指しているものです。

当日は、柏原校区社協が実施する高齢者疑似体験コーナー(高齢者の見えづらさや聞こえづらさを体験するプログラム)に、「特別養護老人ホームライフケア柏原」で働くネパール人と中国人の介護職員がスタッフとして参加・協力し、体験参加者や地域のボランティアと交流しました。日頃から高齢者と接していることもあり、体験参加者の目線に合わせて、丁寧に説明している姿が印象的でした。

今回の取組みをきっかけに、今後も外国人介護職員と地域住民との交流やつながりが広がっていくことが期待されます。



▲子どもたちに分かりやすく体験の説明を行なう、外国人介護職員

## 「あずかりっこ」を実施しました!

地域で子どもを預けたり預かったりする会員組織である福岡ファミリー・サポート・センター南支部では、令和6年10月7日に、「あずかりっこ」を実施しました。「あずかりっこ」とは実際に子どもを預けた経験のない依頼会員と、預かった経験のない提供(両方)会員同士でペアを組み、サポートのお試し体験を行なうものです。

参加した依頼会員からは「少しだけ自分の元から離れた我が子を見て、またさらに愛おしく感じました」、提供会員からは「赤ちゃんの笑い声・泣き声に癒され、自然と笑顔になりました」などの感想をいただきました。

最後に「愛された子どもは素敵な大人になります」という助産師さんの言葉をアドバイザーより紹介し、愛情をもって子どもを地域で育てることの大切さを感じたひとときとなりました。



ありがとうございます

## JA福岡市日佐支店様より、手作り味噌を南区内子ども食堂に寄贈

JA組合員の皆さまが丹精込めて手作りした味噌を、南区内の子ども食堂やフードパントリーの団体に寄贈いただき、今年で5年目になります。

今年度も、令和6年12月18日にJA福岡市日佐支店様の近隣の子ども食堂5か所に、手作り味噌が寄贈されました。

受け取った子ども食堂では、あたたかい豚汁などの料理に味噌を活用するとのことで、みんなを笑顔にしてくれるでしょう。

JA福岡市日佐支店の佐藤支店長は「社会貢献を合言葉に、日佐管内の組織組合員が中心となって始めた取組みです。今後も子ども達のたくさんの笑顔のために、おいしい手作り味噌を寄贈していきたいと思います」と思いを語られました。

